

代表 はまうら佳子

〒582-0026
柏原市旭ヶ丘2丁目4番25号
電話 072-977-5502
FAX 072-977-8782



応援します！ お母さん・働く女性



大学に入学してからです。

練習量も並みではありませんでした。年間を通して休みは正月元旦のみ。毎日、朝1万メートル、夕方また1万メートル。その後1時間の筋トレ。しかしそれ以上に大きな要素は水泳部顧問の指導にありました。顧問曰く「運動とは運が動く世界。運をつかむには神様を味方につけない。そのためには神様の立場に立って考え、行

神様を味方にする 金メダリスト柴田選手の幸運

動しなさい。」水泳指導に
しては、かなりユニーク
に思えます。

ところが、この教えを
最も忠実に実践したのが、柴田選手でした。彼女の口からは、人を中傷したり非難したりする言葉は一度も出ません。友人やチームを大切に、人の幸せを喜ぶだけでなく、人が嫌がるトイレ掃除を率先して行いました。

このような態度は、一見すれば、その競技の能力や成績とは無関係に見えます。しかしどうやらこれこそが神様を味方にする秘訣であり、これに徹すると実力以上の結果を生み出す「運」を引きつけることになるようです。もっとも、このように生きれば、味方になるのは神様だけではなく、周りの人たちもみな味方になって応援しなくなるに違いありません。

柴田選手はとても幸運でした。水泳を極めて金メダルを獲得できたのはもちろんですが、それ以上に、人生のあらゆることに通じる成功哲学を体得することができたからです。

逆、「小中連携で、英語などの学力向上を期待したが、あまり効果は見られな
い」、「中学の数学教師が小学校で算数の授業をした
が、かえって児童が混乱し
大変不評だった」などの声

みなさまの 声 募集中です。

柏原を希望あるまちにする
ため、みなさんのご意見や
ご要望、また夢など、しんど
しお寄せください。

info@change-kashiwara.com
〒582-0026 柏原市旭ヶ丘2丁目4番25号
電話 072-977-5502 FAX 072-977-8782



新しい時代に合った教育改革は子供たちのために必要だが、市は保護者の不安を解消する説明責任を果たすべきだ(写真はイメージ)

国が進める受験戦争緩和対策としての中高一貫に對して、幼小中一貫教育は子供と社会の変化に合わせて「確かな学力、健やかな体、豊かな心、社会性をほぐくむ」ことに主眼を置いていく。具体的には、中学入学後の心理的負担や戸惑いを軽くするため、小中の垣根を取り払った上で、幼小についても円滑な移行を目指して一貫教育を進めようとい

ましてや、子供は実験台ではない。一九九〇年代以降の「ゆとり教育」の導入と、その全否定という世相の変化を体験してきた。制限だけにおさらである。制

子供は実験台でない 堅小一貫校メリットに疑問の声

度は、悪ければ何度でも変えられるが、その教育を受けた子供たちはやはり直しは効かないのだ。
すでにスタートしている堅小一貫校の保護者の話を聞いてみると、「二貫校としてのこれといったメリットを感じられない」という声も多い。熱心な教師が多く、授業でも生活面でも教師の目がゆきまどいているという声は多いが、これは小中一貫制とは無関係で、少数制ゆえの利点だ。

がある。生活面では、バス通学に關して「当初の説明と違ふあいまいな対応に困惑している」という保護者が多かった。
当然、今後導入される地域の保護者の不安の声も多い。「何となく、壮大な教育学的実験のような気がしますが」、「前例がないのだから、もっと慎重に計画を立案してもらいたい」、「そもそも「一貫」って、そんなに良いのでしょうか」など。ただ反対しているのではない。未知の「実験」への不安であり、もっともな意見だ、柏原市の今回の試みは、残念ながら市民への充分な説明がなされているとは言えない。市はもっと説明責任を果たすべきだ。

幼小中一貫校

多くの保護者が導入に不安

柏原市は、幼稚園から中学校まで一一年間にわたって系統的な教育を行う公立「幼小中一貫校」を進めている。子供の心身の成長に合わせて各校が連携した教育をおこなえるメリットがある反面、実験的な色合いも濃く、保護者の不安も大きい。

市は説明責任果たせ

うもの。

英才教育ではなく、社会で適応できるよう小さなころから社会のルールや習慣を教えていくのが狙いだ。

柏原市では平成一八年に内閣府の「生きる学力育成」小中一貫教育特区」の認定を受け、翌年四月から堅上地区で小中一貫教育をスタート。その後、市域全中学校区での一貫教育校の設置準備を進めてきた。

柏原市教育委員会では、幼小中一貫教育を進めるため、小学校と中学校とを一体のものとしてとらえた新しい学校運営体制を考えている。「1小1中タイプ」「2つの小学校と2つの中学校が連携」、「2小1中タイプ

(二つの小学校が一つの中学校と連携)である。今後、堅下南小中学校区において先行的にモデル校を平成二二年度に開校。その後、「2小1中タイプ」のモデル校の取り組みを進め、平成二四年度にはすべての校区における幼小中一貫教育の実現をめざす、としている。

公立の「幼小中一貫校」は、次代を見据えた教育改革という意味で画期的な試みではあるが、もちろん、メリットばかりではない。親

大正西地区の歩道整備を



市会議員のみ
なさまにお願い
があります。

大正西地区の
西山医院から川北にいたる
用水路沿いの道路ですが、最近、外環へ抜けるのに便利なので、車の通行量がものすごく増えて子供や老人が安心して歩けなくなりました。
事故などが起こる前に、歩道を整備して欲しい。これは地域の住民の切なる願いです。どうか、よろしくお願ひします。

